

イオラニ、プナホウへの道



ドクター高橋俊明
心理学博士／ドクター高橋塾塾長
宮崎県出身。東京教育大理学部生物
学科卒業。東京教育大教育学部心理
学科で修士号取得、ハワイ大心理学
部で博士号取得。1968年に川崎市、
69年に文京区、そして77年にホノ
ルルに塾を設立。2018年はハナハウオリ校に3人、プナ
ホウ校に69人、イオラニ校に39人合格。平均合格率は
66%。

Web: www.juku-in-hawaii.com
☎808-949-3366 / 808-679-5612 (日本語)

【その205】夏期特訓コース

2016年から夏期コースの中に特訓コースを開設しています。塾生の合格率が例年、平均66%であるのに対し、この特訓コースに参加した塾生の合格率は2年連続で100%です。

なぜそうなるのか、さらなる分析が必要ですが、まずは普通の夏期コースと特訓コースの主な違いと体験談を3つ紹介します。

1. 勉強時間の違い

夏期コースは、5月末から8月中旬まで約12週間開催しています。個人教授なので、生徒それぞれの都合に合わせたスケジュールの組み方が可能です。多くの場合、ひと夏で30時間から60時間が一般的です。

回数は週3回から週5回までいろいろです。中には、集中的に週6日間、数週間、勉強するケースもあります。特に、米本土や海外から来塾する生徒に多く見られるタイプです。1回の勉強時間は、2時間から3時間が平均的です。これに対し特訓クラスは、幼児の場合、毎日2時間、週5日間を単位にし、平均して4～6週間のコースです。

時間も指定されていて、午前8時か

ら10時、もしくは午後1時から3時です。SSAT特訓クラスは、毎日3時間または6時間、週5日間単位で、3週間から6週間が一般的です。時間は限定されていて、午前9時から12時までと午後3時から6時までです。特訓クラスでは週一回、模擬試験もおこないます。

2. 勉強内容の違い

普通の夏期コースは、生徒のニーズにあった内容を集中的に勉強します。サマークラスの補習を中心とするのは、主として高校生です。高校のサマークラスは、普段の進度の数倍で進むため、日々の宿題やクイズをしっかりこなしていかなないと、なかなかAをとれません。小中学生は苦手な科目の強化に集中するか、またはSSATのための勉強となります。

特訓クラスの場合、10月12日に行われるSSATを念頭に置いて、夏の間に3学年分を効果的に勉強するようスケジュールを組んでいます。幼児の場合は、面接試験が10月や11月にあっても良いように、あらゆる面での練習を重ねます。ある面から見ると、毎日が模擬試験のような印象でしょう。

3. 幼稚園受験体験談

日本のインターに通う4才のA君が来塾したのは、2017年7月の事でした。7月14日から12週間、1対1の個人教授を週10時間、合計で120時間勉強し帰国しました。願書は塾がお手伝いして、プナホウ校一本に絞りました。合格すればハワイに移住するが、そうでなければ、日本に住み続けるというプランでした。結果は合格です。

現在、A君はプナホウ校幼稚園を満喫しています。この夏は、引き続き塾の夏期特訓クラスを午後1時から2時間とり、日本の小学一年生の国語を完璧に修得するプランを立てています。写真はA君です。



4. 4年生受験体験談

ロサンゼルス在住の三つ子の生徒

が来塾したのは、2017年6月のことです。3人は、6月26日から7月27日まで4週間、3時間の個人レッスンを週5日受け、合計60時間の特訓を受けました。この間に、英単語や読解に関しては、5年生の中ほどまでのレベルを習得し、算数に関しては完全に5年生までをマスターしました。2018年1月、プナホウ校のグループ面接のため再びハワイに来た3人は、3時間にわたってグループ面接訓練を受けました。結果は、3人全員合格でした。

5. 両校の9年生合格体験

ある私立校の8年生の生徒Eは、2017年6月5日から、毎日3時間の夏期集中コースを3週間受けました。その後、8月21日から11月4日まで、週2時間の個人教授を10週間受けました。生徒Eの模擬試験結果と本番のパーセンタイルは、以下の通りです。面接、作文や内申書は非常に優秀でした。結果は、プナホウ校とイオラニ校に合格です。

日にち	Verbal	Math	Reading	合計
6月5日模試	15%	55%	40%	110%
8月18日模試	41%	52%	45%	138%
本番最高点	41% (10月)	72% (11月)	57% (10月)	150%